

中緯度偏西風帯に位置する日本には明瞭な四季がありますが、春と夏の間にある「梅雨」は、第5の季節である雨季と呼べるかもしれません。

5月上旬から中旬にかけ、まず沖縄や南西諸島が梅雨入りし、いち早く雨の季節がやってきます。その後、梅雨前線はしだいに北上、6月上旬から九州・四国・中国地方と順番に梅雨入りし始め、6月中旬には梅雨のない北海道を除き、全国が梅雨入りします。

太平洋高気圧の勢力がますます強まってくる6月下旬あたりから、梅雨の活動が活発となり、高気圧周辺の高湿多湿の縁辺流が重なることで、いわゆる梅雨末期の災害をもたらすような大雨が降る機会が多くなります。

西日本での雨の降り方は、「ドシャ降り型」、東日本は「シトシト型」といわれます。西日本は雨粒が大きく雷を伴ったり、またひと降りの量が多いのも特徴です。東日本は西日本に比べると雨粒は小さく、降り方は弱い雨が多くなっています。また、東北地方では寒冷湿潤なオホーツク海高気圧から吹き出す北東気流により、肌寒い天候が続くことがあります。

7月に入り、上空を流れていた亜熱帯ジェットが無くなり、太平洋高気圧が大きく張りだしてくると、全国的に梅雨が明け盛夏が訪れます。

梅雨期間は例年まちまちなので、6月と7月の平年の降水量が年降水量に占める割合を調べると表のようになり、特に西日本でのこの期間の雨がいかになん降水量に占める割合が高いかがわかります。

梅雨期は、豪雨や長雨により土砂災害や水害の危険が高まり、防災対策に気が抜けない時期です。しかし、一方でこの時期の雨は、生活用水や農業用水の需要が増す夏季に向け、降った雨がダムや水源、山間部の土壌等に貯水され、渇水の回避に役立っており、なくてはならない恵みの雨ともいえるのです。

地点		降水量 mm	年降水量mm	割合%
秋田	6月	117.7	1686.2	18
	7月	188.2		
仙台	6月	145.6	1254.1	26
	7月	179.4		
東京	6月	167.7	1528.8	21
	7月	153.5		
大阪	6月	184.5	1279.0	27
	7月	157.0		
高知	6月	346.4	2547.5	26
	7月	328.3		
福岡	6月	254.8	1612.3	33
	7月	277.9		
大分	6月	273.8	1644.6	32
	7月	252.5		
鹿児島	6月	452.3	2265.7	34
	7月	318.9		

※ 降水量は1981年～2010年の平年値